

中学校生徒の漢字を書く力と問題点

目 次

I	研究の趣旨	1
II	研究の目標	1
III	調査研究の概要	3
1	調査研究の内容	3
2	調査対象者	3
3	調査時期および実施方法	3
4	調査研究対象漢字ならびに問題の構成	4
5	結果の処理	5
6	関連調査	5
IV	表記力調査問題と調査結果の概要	5
1	表記力の調査問題 ——— 問一	5
2	調査結果の概要	7
V	調査結果の考察	12
1	教育漢字・当用漢字の表記力	12
(1)	表記力の実態の概観	12
(2)	教育漢字の表記力の実態	13
(3)	当用漢字の表記力の実態	14
(4)	問題点	15
2	熟語の表記力	16
(1)	実態の概観	16
(2)	熟語と漢字	17
(3)	問題点	18
3	熟語の表記と関連調査 ——— 問二	18
(1)	関連調査問題の構成	18
(2)	関連調査問題と結果の概要	18
(3)	考察	21
VI	まとめと反省	25

I 研究の趣旨

① 県内某市教育委員会が出した昭和41年度の「教育研究集録」から、一部分を借用する。

先年、某工場に厄介になった時、工場長が『今春の入社女子工員800名あまりに、「向こうからきれいな女の人 came ました」という文字を書かせたら、90%近くも「木ました」と書いたが、一体、中学校では漢字を教えているのか』と聞かれたことがある。私はカチンと頭にきて、それ以来漢字の書き取りはやかましくいっているが……

この工場長が指摘したとおりでなくても、同じような漢字の書き誤りは高校生・大学生にも少なからず見うけられ、批判とともに笑いの種にされることもある。そして「学校では漢字を教えているのか」という攻撃は、やがて中学校・高校の国語教師に向けられてくる。だから国語教師たるものは「漢字の書き取りはやかましく言っている」のだが、学力テスト、高校入試にあらわれる結果はそう簡単に向上しているとはいえない。

② 文部省で行なった昭和41年度全国中学校学力調査報告書によれば、第1学年の「当用漢字別表の漢字の書き取りと語句の理解」の平均正答率は66.8%であり、従来の成績からみれば、「漢字書写能力の向上していることがうかがわれる。」(文部省同報告書P.152) しかし従来この漢字の書き取り能力の分野の正答率は50%以下であったし、また同じ41年度の第3学年の正答率は31.3%で他の文章の読解、鑑賞、語句、漢字の読み、理解等の分野の正答率に比べて、たいへん低いことなどから判断しても、まだまだ漢字書写能力については喜ぶべき状態とはいえない。

③ 本県の昭和41年度全国中学校学力調査の成績は、第1学年、第3学年を通じて、他の多くの分野が全国平均よりも低いのであるがその差は比較的小さい。(中には、たった一つであるが全国平均より高いものもある。)しかし、語句・漢字の読み・書きの分野は格段に低いのである。書き取りだけでいえば、第1学年は県の正答率は61.9%で全国より4.9%低く、第3学年は25.9%で5.4%低い。このように漢字の読み書き、とくに書き取りはよくないので、県でも「漢字の読み書き能力を高める」ことを学校教育実践上の努力点の一つに掲げている。

④ 中学校ではそれぞれ漢字指導に力を入れているのであるが、上記のテスト結果の数字からは、まだ満足すべき状態でない。これらに対して文部省や県からも指導上の留意点が示されているし、また、漢字指導に関する教育書も出版されている。さらに中学生の漢字書き取り調査も諸方面で行なわれている。(とくに、42年12月下旬に新聞に一部紹介された国立国語研究所の「中学生の言語習得に関する研究」——国立国語研究所年報18——は、重要なものと思われる。)

このような状況の中では、屋上屋を重ねる必要もないわけであるが、あえて県の努力点に合わせる意味で、不じゅうぶんながら書き取りの力の実態を知り、そこから問題を見つけだしたいと思うのである。

II 研究の目標

① 漢字を書く力、いわゆる書き取り能力は、多くは当用漢字別表(教育漢字といわれている。——

以下、教育漢字の語を使う)について調査されていて、それ以外の当用漢字(以下、当用漢字というときは、多くは、教育漢字881字を除いた969字をさす。)については、あまり調査されていないように思われる。指導要領の示すところによれば、中学校卒業までに教育漢字881字は読みと書きがでなければならぬが、別表以外の当用漢字はおもなものに読みなれ、その他の当用漢字も読めるように努めればよいことになっている。すなわち当用漢字が書けるように要求されてはいないのであるから、中学生の当用漢字書き取り調査が行なわれないのも不自然ではないように思う。

しかし、学校において新出当用漢字の読みを指導するとき、読みを確実にするためにその漢字の書写をさせることもあると思われる。それが書写力の定着をねらうものでないにしても、書写作业を通じて自然に定着するのも少なくないと思う。また目にふれる機会が多いほど、特別に書写練習を行なわなくても、正しく書ける場合が多いことは、日常よく知られていることである。このようなことから、中学校で当用漢字の書き取り練習が行なわれなくても、ある程度の当用漢字書写力はあると推察するのである。

ただ、中学校で読めることを要求されている「おもな当用漢字」が、具体的にどの字を指すのかははっきりしない現在では、その「おもな当用漢字」の書き取り能力はどの程度であるかを調べたくても、できない。したがって当用漢字969字の全部について調べるのが最もよいのであるが、今その余裕もなく、また生徒や学校の負担を考えるとそう簡単に調査することができない。そこで便宜的にわずかばかりの当用漢字も含めて、どの程度に書けるのか、うかがってみようと思う。

② 漢字に形・音・義があることはいうまでもないが、生徒は漢字の勉強というと、とかく読み方がわかり形が正しく書ければ事足りるとしているのではなからうか。形の勉強の中には、単に視覚的に字形が正しく見分けられ、正しく書ければよいというだけでなく、扁や旁などの構造的な知識の勉強も含まれているのであるが、漢字の意味になると果たしてどれほど覚えようとしているのであろうか。

ある語が、その文章の中でどのような意味で使われているかを知ることは重要である。しかし、いつも○×式で、「文中の次のことばの意味は、①～④のうちのどれにあたりますか。」という問題に答える練習ばかりしていると、そのことばがもともどどういう意味か、またそのことばが前後の文あるいは全文とどういふかかわりあいがあるかを深く考えようとしなくて、示された選択肢の中からあたるかあたらないかの感じだけで答えをふりわけようとする傾向に陥りやすい。また、「文中の□のところにはどんな単語を入れたらよいでしょうか、次のA～Dの中から一つ選びなさい。」というような問題で、熟語が四つ並べられているとき、それぞれの熟語の意味がわからなくても、□に代入してみても語感があうとか、字づらがよさそうだとかの気分で、適当にあてはめようとするのが少なくなからう。わたし自身の日常生活を反省してみても、ほとんどこのようにだいたい適合しそうだという程度で日常を間に合わせているのである。しかし、学習ということを考えればもっと厳密さが必要であらう。

さて、漢字書き取りの調査には、北九州五市教育研究所(昭32.9月全教連年報による)や、滋賀県教育研究所(昭42.3月 紀要)のように誤答のうちのあて字を調査し、それに基づいて漢字指導上の留意点を指摘しているものもあり、また、学力調査の結果から文部省や県でも指導上の留意点を示されている。それら留意事項によれば、漢字の字形認知の問題にとどまらず、漢字が表意文字である点を重視して語句の意味をもあわせ理解させるよう指摘している。生徒の語句の理解のしかたが、前に述べ

たように文中の前後からいいかげんに推定してあてはめ、それで事足れりというようであるならば、たとえば、大水・用水・防水・海水・清水・汚水・治水・水分・水圧・水害・水準・水道・水泳などはそれぞれが関連のない別個の単語として理解することになる。もちろんそれぞれの単語の意味を文に即して正しく知ることは必要であるが、一方そこに共通の「水」という漢字があるときは、表意文字「水」の意味を知って他の文字の意味と結合させて単語の素朴な意味を悟り、その後正しい意味に到達するようにするのが、記憶を容易にし、またその字を含む新単語に出あっても推定が容易になるのではなかろうか。生徒は熟語を1単位として意味理解をしていて、その熟語を構成している要素の漢字の意味にはわりあい無とんじゃくなのではないだろうか。このような予想のもとに熟語のいくつかの書き取りの力を見ようとするものである。

Ⅱ 調査研究の概要

1 調査研究の内容

教育漢字ならびに当用漢字を書く力、とくに熟語を書く力を見るため、調査問題は2漢字で構成する熟語を短文に含めて提出した。(これを **問一** とする) また提出の順序は、概ね語いとして重要度の高いものから低いものと配列した。

なお、この他に関連調査として、上記 **問一** に使用した漢字の意味に関する問題をも調査した。(これを **問二** とする)

2 調査対象者

ア 学 年 中学校第2学年

イ 調査協力学校 11校

新 潟 市 山ノ下中学校

中蒲原郡 亀田中学校

〃 寄居中学校

西蒲原郡 巻中学校

三 条 市 第二中学校

三 島 郡 寺泊中学校

〃 第三中学校

刈 羽 郡 内郷中学校

新発田市 五十公野中学校

南魚沼郡 塩沢中学校

白 根 市 庄瀬中学校

協力校は、a 使用教科書が1出版社にならないように、 b 都市部だけにならぬように、 c その他をかんあんして選び、11校にお願いした。

ウ 調 査 人 員 各学校各1学級、計11学級、総数418人(男216人、女202人)

3 調査時期および実施方法

ア 時 期 43年1月9日 ～ 1月26日

イ 実施方法 センター所員または学校の担任教師により、調査問題 **問一** (書き取り)、

問二 (意味など)をそれぞれ25分ずつ、計50分間実施した。なお、答えやすくするために、問一で熟語がわからないときは、熟語の中の一字だけ書いてもよく、二字ともわからないときには、熟語の意味を書くよう指示しておいた。

4 調査研究対象漢字ならびに問題の構成

教育漢字78字、当用漢字12字、計90字を調査した。2漢字で構成した熟語は、「教育基本語彙」(注1参照)により、学年段階と重要度を考えて便宜上5つの組にまとめて問題を構成した。また、当用漢字は、国立国語研究所報告22「現代雑誌九十種の用語用字」により、使用度の高い漢字を採用した。

(なお、少し説明を加えておくと、この45熟語は、⑦小学校6年用国語教科書および中学校1年用国語教科書の本文や学習の手引などから、④文部省全国中学校学力調査の問題から、②本県高等学校入学者選抜学力検査の問題から、選びだしたものである。)

熟語ならびに漢字は下記のとおりである。(注2)

① B1に属するもの

原作・意外・疑問・改革・歓迎・祝辞・児童・見聞・呼吸・清潔
犯罪・入院・報道

② B2・B3に属するもの (注3)

観衆・再会・中毒・余分・帰宅

③ C1に属するもの

普及・予測・近況・祭典・身辺・推量・是非・救済・加盟・列举
有効・未満・提案・立腹・抜群・就任

④ C2に属するもの

大差・痛感・軽重・不変・越境

⑤ C3・C4に属するもの (注4)

遠来・旧知・異同・眼目・被害・多難

(注1) 阪本一郎著「教育基本語彙」(昭和33年8月 牧書店発行)には、学年段階と重要度を次のように示している。

A……小学校1年～3年の段階	1……各段階でもっとも重要度の高い単語	1.000語
B……小学校4年～6年の段階	2……各段階で次に重要度の高い単語	1.001番～2.000番の語
C……中学校1年～3年の段階	3……各段階で次に重要度の高い単語	2.001番～3.000番の語
	4……各段階で次に重要度の高い単語	3.001番～4.000番の語

(注2) ゴシック体は当用漢字である。

(注3) B3に属するものは、「余分・帰宅」である。

(注4) C4に属するものは、「被害」である。

5 結果の処理

調査問題 **問一**（書き取り）の解答用紙は当センターに集め採点・集計の処理をした。

正答の判定はだいたい次の方針によって行なった。

- a 旧字体も認める。
- b 字画のつりあいのはなはだしく破れているものは、誤りとみる。
- c 行草体でまぎらわしく書かれたものは、誤りとみる。

このほか画数の多少や筆画の長短でまぎらわしいものがあるときは、主観によって判定した。

6 関連調査

書き取り調査（**問一**）で正答できないものの中には、字形を正しく思い出せないための誤答や無答が大部分であろうが、そのほかに、熟語の意味あるいは熟語に使われた漢字の意味をよく理解していないために別の字をあてるなどの誤答も考えられる。それを少しでも明らかにしたいと思い、関連調査を行なった。（これを **問二** とした。）したがって、調査問題 **問二** は、**問一** における調査対象漢字の意味に関する問題であるともいえる。（調査問題は後述する）

対象漢字全部について意味を書いてもらえばいいのはよいのであるが、生徒の負担、実施時間を考えて出題形式に変化をつけた。そのため **問一** の漢字の全部にわたることはできなかった。

実施方法は、**問一**（25分）が終わったら問題用紙と解答用紙とを回収し、回収し終わったら

問二 用紙を配布し、25分間実施した。

結果の処理は、当センターで行なったが、自由記述のところの正誤の判定は、ある問題については方針がきびしく、ある問題については方針がゆるやかであったり、また同一問題についても主観により正誤が動いたことは否定できない。

Ⅳ 表記力調査問題と調査結果の概要

1 表記力の調査問題 ——— **問一**

次の文のなかの—線をひいたところ(1)～(9)を漢字になおしなさい。漢字は二つで一つのことばになりますが、1字でもわかるのは書いてください。また、2字ともわからないときには、そのことばのいみを書いてください。

①

ア 映画でみた物語の(1)げん(2)さくを読んでいるうちに、(3)い(4)がいなことに気づき、(5)ぎ(6)もんがわいてきた。

イ 学校制度を(7)かい(8)かくする。

ウ 老先生の(9)かん(10)げいかいのとき、わたしが(11)しゅく(12)じをのべる。

エ これからは(13)じ(14)どうや生徒たち若い人の時代です。おおいに(15)けん(16)ぶんを広めよう。

オ 毎朝しん⁽¹⁷⁾こ⁽¹⁸⁾きゅうをし、手足を⁽¹⁹⁾せい⁽²⁰⁾けつにして出かける。
 カ 「かくれていた⁽²¹⁾はん⁽²²⁾さい者が、けがのため⁽²³⁾にゅう⁽²⁴⁾いんした。」とテレビで⁽²⁵⁾ほう⁽²⁶⁾どうされた。

[2]

キ 野球の⁽²⁷⁾かん⁽²⁸⁾しゅうのなかで、ぐうぜん友にあったので、あす⁽²⁹⁾さい⁽³⁰⁾かいすることに
 した。
 ク 昼食のおかずに⁽³¹⁾ちゅう⁽³²⁾どくしたので、⁽³³⁾よ⁽³⁴⁾ぶんの物は何も持たずに⁽³⁵⁾き⁽³⁶⁾たくした。

[3]

ケ ちかごろテレビの⁽³⁷⁾ふ⁽³⁸⁾きゅうはめざましく、10年さきのことは⁽³⁹⁾よ⁽⁴⁰⁾そくできない。
 コ 家の⁽⁴¹⁾きん⁽⁴²⁾きょう、村の神社の⁽⁴³⁾さい⁽⁴⁴⁾てん、そのほか⁽⁴⁵⁾しん⁽⁴⁶⁾へんのできごとを兄に
 書きおくれた。
 サ わたしの⁽⁴⁷⁾すい⁽⁴⁸⁾りょうしたとおりです。
 シ 人のいけんを正しくきいて、⁽⁴⁹⁾ぜ⁽⁵⁰⁾ひをはんだんする。
 ス 生活にこまっている人を⁽⁵¹⁾きゅう⁽⁵²⁾さいする運動の⁽⁵³⁾か⁽⁵⁴⁾めい者を⁽⁵⁵⁾れっ⁽⁵⁶⁾きよする。
 セ 「いちばん⁽⁵⁷⁾ゆう⁽⁵⁸⁾こうな方法は、100円⁽⁵⁹⁾み⁽⁶⁰⁾まんは切りすてることだ。」と⁽⁶¹⁾てい⁽⁶²⁾あんした。
 ソ 人にののしられ、おもわず⁽⁶³⁾りっ⁽⁶⁴⁾ぶくした。
 タ 彼は⁽⁶⁵⁾ばつ⁽⁶⁶⁾ぐんのせいせきだから、すぐ委員長に⁽⁶⁷⁾しゅう⁽⁶⁸⁾にんした。

[4]

チ どのやりかたでも⁽⁶⁹⁾たい⁽⁷⁰⁾さがないことを⁽⁷¹⁾つう⁽⁷²⁾かんした。
 ツ 物事の⁽⁷³⁾けい⁽⁷⁴⁾ちょうをよく考えてから実行する。
 テ 永久⁽⁷⁵⁾ふ⁽⁷⁶⁾へんの真理をさがしもとめる。
 ト この土地へこっそり⁽⁷⁷⁾えっ⁽⁷⁸⁾きょうしてくる人がある。

[5]

ナ ⁽⁷⁹⁾えん⁽⁸⁰⁾らいの客は、実は⁽⁸¹⁾きゅう⁽⁸²⁾ちの友だった。
 ニ 3人の考えの⁽⁸³⁾い⁽⁸⁴⁾どうを読みとるのが、きょうの勉強の⁽⁸⁵⁾がん⁽⁸⁶⁾もくです。
 ヌ 地震の⁽⁸⁷⁾ひ⁽⁸⁸⁾がいがおおきいので、前途は⁽⁸⁹⁾た⁽⁹⁰⁾なんです。

2 調査結果の概要

(表1) 漢字の正答・誤答・無答率

番号	漢字	正 答	誤 答	無 答
1	原	76.3%	12.9%	10.8%
2	作	93.8	4.8	1.4
3	意	43.5	35.0	21.5
4	外	72.7	6.3	21.0
5	疑	38.5	38.0	23.5
6	問	84.9	12.0	3.1
7	改	58.4	18.4	23.2
8	革	43.5	26.1	30.4
9	歓	22.7	37.6	39.7
10	迎	11.7	33.7	54.6
11	祝	32.7	25.2	42.1
12	辞	20.7	29.2	50.0
13	児	57.4	26.8	15.8
14	童	65.8	16.3	17.9
15	見	47.8	19.9	32.3
16	聞	44.7	39.0	16.3
17	呼	70.3	10.8	18.9
18	吸	75.3	10.8	13.9
19	清	64.1	14.6	21.3
20	潔	24.4	28.5	47.1
21	犯	31.3	20.3	48.4
22	罪	49.3	10.8	39.9
23	入	85.2	7.7	7.2
24	院	83.7	6.5	9.8
25	報	39.5	45.4	15.1
26	道	45.5	37.1	17.5
27	観	43.3	21.8	35.0
28	衆	17.2	47.6	35.2
29	再	57.4	9.6	33.0
30	会	69.9	12.0	18.1

(表2) 熟語の正答・誤答・無答率

熟 誤	重要度	正 答	誤 答	無 答
原作	B 1	73.7%	24.9%	1.4%
意外	B 1	39.0	44.3	16.7
疑問	B 1	37.6	59.3	3.1
改革	B 1	41.4	39.2	19.4
歓迎	B 1	7.4	60.5	32.1
祝辞	B 1	12.4	56.2	31.3
児童	B 1	47.4	43.3	9.3
見聞	B 1	38.8	45.9	15.3
呼吸	B 1	66.5	23.0	10.5
清潔	B 1	23.0	56.2	20.8
犯罪	B 1	25.8	43.1	31.1
入院	B 1	75.6	20.1	4.3
報道	B 1	25.6	64.4	10.0
観衆	B 2	13.6	61.7	24.6
再会	B 2	52.2	30.9	17.0

番号	漢字	正 答	誤 答	無 答
3 1	中	7 5.6 %	5.5 %	1 8.9 %
3 2	毒	7 0.1	7.7	2 2.2
3 3	余	5 0.1	2 0.8	2 8.2
3 4	分	7 4.6	3.8	2 1.5
3 5	帰	7 5.8	9.8	1 4.4
3 6	宅	5 5.0	1 3.6	3 1.3
3 7	普	1 9.1	2 0.3	6 0.6
3 8	及	1 7.0	2 2.7	6 0.3
3 9	予	6 2.4	1 0.0	2 7.5
4 0	測	3 0.1	3 5.5	3 4.4
4 1	近	5 8.9	1 0.3	3 0.9
4 2	況	1 0.5	2 8.9	6 0.6
4 3	祭	3 2.3	3 2.5	3 5.2
4 4	典	2 5.6	4 2.8	3 1.6
4 5	身	2 6.8	3 7.8	3 5.4
4 6	辺	4 3.3	1 2.4	4 4.3
4 7	推	4 1.1	1 6.3	4 2.6
4 8	量	6 1.7	6.3	3 2.1
4 9	是	1 5.8	1 8.2	6 6.0
5 0	非	3 0.4	1 5.8	5 3.8
5 1	救	2 5.8	2 9.2	4 5.0
5 2	済	5.2	2 1.3	7 3.5
5 3	加	5 0.5	1 7.5	3 2.1
5 4	盟	1 4.8	5 3.1	3 2.1
5 5	列	3 2.5	1 4.4	5 3.1
5 6	挙	1 1.0	1 5.6	7 3.4
5 7	有	4 4.3	8.4	4 7.3
5 8	効	1 8.2	2 7.0	5 4.8
5 9	未	5 7.9	2 8.0	1 4.1
6 0	満	6 7.5	1 5.3	1 7.2
6 1	提	3 9.5	4 4.2	1 6.3
6 2	案	7 4.4	1 3.9	1 1.7
6 3	立	4 7.6	6.0	4 6.4
6 4	腹	2 8.5	2 0.3	5 1.2

熟 語	重要度	正 答	誤 答	無 答
中 毒	B 2	6 1.5 %	2 5.8 %	1 2.7 %
余 分	B 3	4 7.8	3 3.7	1 8.4
帰 宅	B 3	5 0.7	3 7.6	1 1.7
普 及	C 1	1 4.4	3 4.0	5 1.7
予 測	C 1	2 7.8	4 8.8	2 3.4
近 況	C 1	1 0.3	6 0.0	2 9.7
祭 典	C 1	1 7.9	5 8.9	2 3.2
身 辺	C 1	2 3.7	4 5.7	3 0.6
推 量	C 1	3 7.1	3 4.7	2 8.2
是 非	C 1	1 4.1	3 5.4	5 0.5
救 済	C 1	4.1	5 2.4	4 3.5
加 盟	C 1	1 4.1	6 2.2	2 3.7
列 挙	C 1	8.4	4 2.6	4 9.0
有 効	C 1	1 6.5	4 3.1	4 0.4
未 満	C 1	4 6.2	4 5.0	8.9
提 案	C 1	3 6.6	5 5.3	8.1
立 腹	C 1	2 7.0	3 2.1	4 0.9

番号	漢字	正 答	誤 答	無 答
65	拔	9.6 %	6.2 %	84.2 %
66	群	21.8	19.6	58.6
67	就	4.5	27.0	68.5
68	任	52.6	23.7	23.7
69	大	37.1	24.2	38.7
70	差	55.7	8.6	35.6
71	痛	9.1	62.2	28.7
72	感	50.2	19.4	30.4
73	輕	9.8	26.3	63.9
74	重	13.6	20.1	66.3
75	不	46.9	3.6	49.5
76	変	21.1	24.4	54.5
77	越	6.7	12.2	81.1
78	境	8.6	20.3	71.1
79	遠	45.0	13.9	41.1
80	来	66.8	3.1	30.1
81	旧	33.5	20.3	46.2
82	知	24.4	38.5	37.1
83	異	3.6	58.8	37.6
84	同	1.7	65.3	33.0
85	眼	12.9	35.4	51.7
86	目	49.0	19.4	31.6
87	被	9.6	43.3	47.1
88	害	78.5	5.0	16.5
89	多	45.9	9.3	44.8
90	難	29.4	23.0	37.6

熟 語	重要度	正 答	誤 答	無 答
拔 群	C 1	7.9 %	35.4 %	56.7 %
就 任	C 1	4.3	73.2	22.5
大 差	C 2	32.8	36.1	31.1
痛 感	C 2	8.4	71.1	20.6
輕 重	C 2	8.1	33.5	58.4
不 変	C 2	18.4	37.6	44.0
越 境	C 2	4.1	29.2	66.7
遠 来	C 3	43.1	29.2	27.7
旧 知	C 3	13.2	55.0	31.8
異 同	C 3	0.7	70.8	28.5
眼 目	C 3	12.2	58.1	29.7
被 害	C 4	9.6	75.1	15.3
多 難	C 3	22.0	43.1	34.9

(表3) 漢字の正答率 (順位)

—— ここでは、正答率の高いものから順に漢字を並べかえ、参考までに「児童生徒の漢字を書く能力とその基準」(文部省 昭和27年5月)に載せてある、中学校第2学年の教育漢字の正答率を付記することにする。—— <漢字の右下の数字は教育漢字の配当学年を示す>

順	漢字 (学年)	正答率	文部省 正答率	順	漢字 (学年)	正答率	文部省 正答率	順	漢字 (学年)	正答率	文部省 正答率
1	作 ②	93.8	95	31	余 ⑤	51.0	37	61	身 ③	26.8	80
2	入 ②	85.2	91	32	加 ④	50.5	76	62	救 ⑤	25.8	32
3	問 ④	84.9	76	33	感 ③	50.2	82	63	典 ⑤	25.6	54
4	院 ④	83.7	79	34	罪 ⑥	49.3	54	64	潔 ⑥	24.4	42
5	害 ④	78.5	71	35	目 ①	49.0	99	〃	知 ②	24.4	84
6	原 ③	76.3	91	36	見 ②	47.8	85	66	飲 ⑥	22.7	25
7	帰 ③	75.8	78	37	立 ②	47.6	87	67	群 ⑤	21.8	44
8	中 ①	75.6	100	38	不 ④	46.9	90	68	交 ④	21.1	65
9	吸	75.3	—	39	多 ②	45.9	86	69	辞 ⑤	20.8	40
10	聞 ③	74.7	84	40	道 ②	45.5	95	70	普	19.1	—
11	分 ②	74.6	91	41	遠 ③	45.0	83	71	効 ⑥	18.2	33
12	案 ④	74.4	44	42	有 ④	44.3	82	72	衆 ⑥	17.2	39
13	外 ②	72.7	97	43	革 ⑥	43.5	30	73	及	17.0	—
14	呼	70.3	—	〃	意 ③	43.5	82	74	是 ⑥	15.8	23
15	委 ⑤	70.1	67	45	辺 ⑤	43.3	71	75	盟 ⑥	14.8	35
16	会 ②	69.9	94	〃	観 ④	43.3	52	76	重 ③	13.1	86
17	満 ⑤	67.5	62	47	推 ⑥	41.1	35	77	眼 ⑥	12.9	51
18	来 ②	66.8	87	48	報 ⑤	39.5	51	78	迎	11.7	—
19	童 ④	65.8	58	〃	提 ⑥	39.5	36	79	拳 ④	11.0	40
20	済 ④	64.1	81	50	疑 ⑥	38.5	33	80	況	10.5	—
21	予 ④	62.4	61	51	大 ①	37.1	99	81	軽 ④	9.8	66
22	量 ⑤	61.7	69	52	旧 ⑥	33.5	51	82	抜	9.6	—
23	近 ③	58.9	88	53	祝 ⑤	32.7	48	〃	被	9.6	—
24	改 ④	58.4	49	54	列 ④	32.5	73	84	痛	9.1	—
25	未 ⑥	57.9	57	55	祭 ④	32.3	67	85	境 ⑥	8.6	51
26	児 ⑥	57.4	65	56	犯 ⑥	31.3	35	86	越	6.7	—
〃	再 ⑥	57.4	42	57	非 ⑤	30.4	66	87	済 ⑥	5.0	54
28	差 ④	55.7	44	58	測 ⑤	30.1	40	88	就 ⑥	4.5	29
29	宅	55.0	—	59	難 ⑥	29.4	48	89	異 ⑥	3.6	46
30	任 ⑤	52.6	57	60	腹	28.5	—	90	同 ③	1.7	88

(表4) 熟語の正答率 (順位)

—— ここでは、表3にならって正答率の高いものから順に熟語を並べかえ、参考として文部省著「児童・生徒の語い力の調査 本調査(昭和33年度)〔小学校第6学年〕」(国語シリーズ51)と、同じく「児童・生徒の語い力の調査 本調査(昭和35年度)〔中学校第3学年〕」(国語シリーズ58)から、語い理解の度合いの割合を引用し付記する ——

なお、(理解の度合い)は、

- 1 よく知っていることば (第1段階)
- 2 だいたいわかることば (第2段階)
- 3 ほんやりとしかわからないことば (第3段階)
- 4 全然知らないことば (第4段階)

を示し、各段階ごとに人数を%で示したものである。したがって1～4段階を加えると100%になる。

また、(理解の度合い)欄の無記は、文部省未調査の熟語を表わしている。

熟語欄のゴシックは教育漢字外の当用漢字である。

順位	熟語	正答率	坂本 重要度	小6 (理解の度合い)				中3 (理解の度合い)			
				1	2	3	4	1	2	3	4
1	入院	75.6%	B1								
2	原作	73.7	B1								
3	呼吸	66.5	B1								
4	中毒	61.5	B2								
5	再会	52.2	B2	23.3	15.7	20.7	40.3	66.0	15.3	10.3	8.3
6	帰宅	50.7	B3	34.0	15.3	17.0	33.7				
7	余分	47.8	B3								
8	児童	47.4	B1								
9	未満	46.2	C1	45.3	21.0	14.7	19.0				
10	遠来	42.8	C3								
11	改革	41.4	B1	42.3	14.0	15.0	28.7	62.3	22.0	11.3	4.3
12	意外	39.0	B1	55.3	21.3	16.0	7.3				
13	見聞	38.8	B1	20.3	20.7	23.7	35.3	48.0	30.3	15.0	6.7
14	疑問	37.6	B1								
15	推量	37.1	C1	11.7	15.3	27.7	45.3				
16	提案	36.6	C1	42.0	19.7	15.7	22.7				
17	大差	32.8	C2	33.7	15.7	21.0	29.7	72.3	17.0	4.7	6.0
18	予測	27.8	C1	19.0	22.3	25.7	33.0	42.3	27.3	18.0	12.3
19	立腹	27.0	C1	25.7	17.3	24.0	33.0	40.0	25.0	24.3	10.7
20	犯罪	25.8	B1								
21	報道	25.6	B1	53.3	17.3	13.7	15.7				
22	身辺	23.7	C1	19.7	20.7	24.7	35.0	51.0	16.3	19.7	13.0

順位	熟語	正答率	坂本 重要度	小 6 （理解の度合い）				中 3 （理解の度合い）			
				1	2	3	4	1	2	3	4
23	清潔	23.0%	B 1								
24	多難	22.0	C 3	19.7	20.0	26.0	34.3	51.0	19.0	18.7	11.3
25	不変	18.4	C 2	15.7	21.7	21.3	41.3	35.0	28.0	24.3	12.7
26	祭典	17.9	C 1	27.3	17.7	28.3	26.7	56.3	21.3	14.0	8.3
27	有効	16.5	C 1	27.0	15.3	23.3	34.3	74.3	17.3	4.3	4.0
28	普及	14.4	C 1	12.7	13.7	30.0	43.7	51.3	25.7	17.3	5.7
29	加盟	14.1	C 1	22.3	17.3	20.3	40.0	65.7	17.7	7.3	9.3
〃	是非	14.1	C 1	44.7	15.0	15.0	25.3	43.7	20.0	19.3	17.0
31	観衆	13.6	B 2	48.0	11.7	19.3	21.0	73.7	15.0	8.7	2.7
32	旧知	13.2	C 3					30.3	18.0	25.0	26.7
33	祝辞	12.4	B 1	27.0	15.7	23.0	34.3	68.0	14.3	11.3	6.3
34	眼目	12.2	C 3	20.3	25.7	24.3	29.7	32.7	29.0	24.0	14.3
35	近況	10.3	C 1	6.7	15.7	29.3	48.3	39.3	21.7	24.0	15.0
36	被害	9.6	C 4	63.3	17.3	8.3	11.0				
37	列挙	8.4	C 1								
〃	痛感	8.4	C 2	12.0	19.3	23.7	45.0	41.3	24.0	23.0	11.7
39	軽重	8.1	C 2	23.7	20.0	23.7	32.7	42.7	25.7	20.0	11.7
40	抜群	7.9	C 1	12.3	17.7	27.3	42.7	31.0	20.0	25.0	24.0
41	歓迎	7.4	B 1	36.3	18.0	17.7	28.0				
42	就任	4.3	C 1	20.0	15.3	27.3	37.3	35.0	32.0	24.0	9.0
43	越境	4.1	C 2	6.0	9.3	20.7	64.0	23.0	20.7	26.3	30.0
44	救済	3.8	C 1	11.3	12.0	26.7	50.0	27.3	24.0	27.3	21.3
45	異同	0.7	C 3	17.0	15.7	26.7	40.7	29.0	28.0	28.3	14.7

V 調査結果の考察

1 教育漢字・当用漢字の表記力

(1) 表記力の実態の概観

- a 本調査90字の正答率の平均は、表5のとおり41.3%で、全体としてみて良い成績ではない。教育漢字の平均が43.5%であるのも、中学2年としては物足りない。国立国語研究所年報18所載「中学生の言語習得に関する研究」によると、調査対象8人の中学2年前期における教育漢字881字の書きの平均は789.3字（89.6%）である。調査方法も対象もちがうので、直ちに比較することはできないが、教育漢字の1割足らずの出題漢字78字の平均が43.5%では、熟語表記の困難があるにしても物足りなさを感じる。

（表5） 漢字正答率の平均

	正答率
全 体（90字）	41.3%
教育漢字（78字）	43.5
当用漢字（12字）	26.9

当用漢字の表記力が教育漢字よりも劣ることは予想されることがあるが、差が開きすぎる感じがした。前記国語研究所の研究によれば、同方法による教育外当用漢字969字の書きの平均は336.6字(34.7%)であるから、教育漢字ほどの差はないが、しかしこれも本調査がわずか12字しか選んでいないために、969字の調査と比較することは危険である。

b 本調査の教育漢字を配当学年別にまとめ、正答率の順位を比較すると、次のようになる。

1位 2年(11字) 2位 1年(3字) 3位 4年(18字)
4位 3年(10字) 5位 5年(14字) 6位 6年(22字)

1年配当の漢字が2年よりも順位が低いのは、たとえば、1年配当の「目」「大」などそれぞれ字体はやさしく使用度数も多い字であるが、「眼目」「大差」という熟語になると「教育基本語彙」の重要度は、C3・C2という中学生でもやさしくない段階になるので、したがって、「目」「大」の正答率がぐっと低下したのであろう。そのようなことを考慮すれば、低・中・高学年とだいたい順位が並んでいるのは妥当なことであろう。また、低位に5・6年用の字が多いのは、この学年の字の定着度が低いことを示すものであろう。この点国語研究所の中学生の研究でも、「5・6年用漢字の中に習得しにくいものがある、完全習得にまで至っていない。」述べているがうなずける。(前記同書きP62)

なお、当用漢字(12字)の正答率の順位は、6年よりも低く7位になっている。

c 無答率が36.7%で全体の約3分の1を占めることは、生徒にとって調査問題が全般的にむずかしかったからであろう。

d 段階別成績の分布は、表5のとおりである。

0点も満点もなく、全体の山が少し成績の悪い方に寄っている。男女の成績には、統計的な有意差はみられなかった。

(表6) 漢字成績の分布状況

	0点	～10	～20	～30	～40	～50	～60	～70	～80	～90	計
男子	0人 (0)%	28 (13)	37 (18)	33 (15)	35 (16)	31 (14)	28 (13)	15 (7)	9 (4)	0 (0)	216 (100)
女子	0 (0)	10 (5)	28 (14)	26 (13)	39 (19)	40 (20)	29 (14)	20 (10)	9 (5)	1 (0)	202 (100)
合計	0 (0)	38 (9)	65 (16)	59 (14)	74 (18)	71 (17)	57 (14)	35 (8)	18 (4)	1 (0)	418 (100)

90点満点 最高81点(女) 最低1点(男)

(2) 教育漢字の表記力の実態

文部省「児童生徒の漢字を書く能力とその基準」による教育漢字の表記力と、本調査の教育漢字の表記力とは、調査問題がちがひ実施した年も離れているので同水準で比漢することはできないが、本調査

もこれと比較することにより傾向が明らかになる点もあるので、ここに引用した。

- a ここに調査した教育漢字78字の平均正答率は43.5%で、文部省の同漢字78字の正答率が約63.5%であるのに比べると、約2.0%も低い。もっとも文部省の調査問題は音だけでなく訓の表記もあるのと、2字構成の熟語でもそのうちの1字を書かせる問題が多く見られるので、本調査よりは表記しやすい傾向にあると思うが、それにしても平均で20%も低いということは、全体としてみて教育漢字の表記力は高くないといっておく。
- b 教育漢字78字の正答率を1字ずつ文部省のものと比べてみると、文部省より正答率の高いのは、「院」「毒」「再」「余」「童」「未」「満」「改」「革」「疑」「問」「推」「提」「案」「差」「予」「害」の17字で、他の61字は低い。文部省より正答率が高いといっても、「案」がとび抜けている(30%高い)だけで、12字は9%以下高いだけである。それに対して低い方は幅が広く最も差があるのは「同」で86%も低い。これも厳密には、調査問題の性質によることであるから、単に数字だけで比較することは危険であるが、あまりにも差がありすぎる。
- c とくに正答率の低い方からみると、3年配当の「同」が最低である。普通の書き取り調査なら小学生でもずっと良い成績を得るはずであるが、「異同」という教育基本語集は、本調査では最もむずかしく緑の薄いC3の段階であるから正しく書けなかったのであろう。「異同」は誤答の大部分が「移動」であり、「異同」を思いついたものは少なかったのである。「異同」、「移動」を書いたものは、その字の点画の誤りはたいへん少なかったのである。
- d 「就」「済」「境」などはいずれも正答率が低く、また無答も50%以上ある。これも6年生用の字であるせいか、あるいは生活に縁遠いせいか、定着していないのであろう。また、「就任」「救済」「越境」のことはが親しまれていない(それぞれC1, C1, C2)ことにも不成績の理由があろう。「軽」「重」も字そのものとしては4年生・3年生用であるからよく知っているはずであるが、正答率も50%以上であるのは、熟語として(C2)むずかしかったためと思われる。
- e 「就」「済」「境」「軽」「重」以外にも無答率50%以上のものに、「是」「非」「列」「拳」「効」「群」「変」「眼」がある。これらも本調査の熟語としては、C1・C2・C3に属し、比較的むずかしいものに属している。
- f 誤答の中には「外」「見」「清」のように点画の誤りがひじょうに少ないものもあるが、「潔」「衆」「難」など点画の誤りが多く、そのために誤答率を高くしているものもある。
- g 誤答の中であて字については、字としてよりも語として見るべきものが多いので、後述の熟語表記でふれたい。

(3) 当用漢字の表記力の実態

中学校にはいって急にたくさんの当用漢字に接するので、生徒は応接にいとまがないかもしれないが、しかし使用度数の多いものはおのずから親しみ、覚え、よく書けるようになると思われるので、ここでは使用度数の多いと思われる当用漢字を選んで出題した。ただし県内採用の教科書を調査する余裕がなかったため、国立国語研究所報告22「現代雑誌九十種の用語用字」によって使用度数51以上のものから採った。この報告によれば、教育漢字・当用漢字・表外漢字を通じて使用度数51以上の漢字が、現代雑誌90種で使用した漢字の延べ字数の90.3%を占めているのである。現代雑誌で使用した漢字

が即、中学校教科書1年生用の漢字であるかどうか知らないが、これを考慮した教科書も作られているし、そうでなくてもこれが中学校で指導すべき「おもな当用漢字」に示唆を与えるものと思うので、あえてこの報告によって当用漢字を選んだのである。

(表7) 当用漢字と使用度数 (国語研究所)

当 用 漢 字	迎	呼	吸	宅	普	及
使 用 度 数	79	144	59	102	90	107
当 用 漢 字	況	腹	技	痛	越	被
使 用 度 数	54	88	102	83	108	71

- a 当用漢字の表記力は、本調査の範囲内では、最も正答率が低く、12字出題のうち8字は70位以下に位置する。なかには「呼」のように使用度数が多いただけあって、正答率が比較的高いものもあるが全般的にみてきわめて低調である。
- b 「呼」「吸」「宅」の3字が正答率50%以上である。これは、「呼吸」「帰宅」の熟語が教育基本語彙でB1・B3に属する語であり、また他教科や日常生活の上で親しまれている字であるからであろうか。
- c 「歓迎」はB1に属する語であり、生徒も学校生活でよく使うことばであるが、「迎」の字画の誤りによって低率になった。「迎」の誤答141字のうち約60字は字画の誤りであるから、字画が正しければ、正答率はたちまち10%以上上昇するのである。
- 「被」は無答も多いが、字画の誤りが目立った。
- d 「越」は、たとえば「越後の国」というような文脈で出題すれば、ずっと正答率は高くなったと思われるが、「越境」ということば(C2)は耳なれていなかったのであろう。
- e 無答率の高いものは、「迎」「普」「及」「況」「腹」「技」「越」などで、教育漢字の無答率よりはるかに高い。とくに、「技」「越」はことばとしてむずかしいのと、当用漢字であるため書写に自信がなくて書かなかったのではなかろうか。

(4) 問 題 点

- a 正答率の低い漢字の中には、点画の誤りによるところが大きいものもあるので、とくにそれらを字形を正しくとらえて表現するよう注意しなければならない。
- b 無答が約3分の1あったことは、調査問題のむずかしさによるものであろう。無答の出現率の多かった熟語を、配当学年と重要度から分けてみると、字はやさしくても語としてその多くがC1・C2・C3に属するものである。このことから、字形の指導だけでなく熟語の指導もだいじなのではないかと考える。
- c 当用漢字を書けるように要求されていないが、社会で多く使われるような字はなるべく1年生から表記できるよう、少しずつ練習させておくのがよくないだろうか。

2 熟語の表記力

(1) 実態の概観

a 45熟語の平均正答率は27.2%，誤答率は45.9%，無答率26.9%である。正答が全体の4分の1強，誤答が2分の1弱であって，これを漢字の正答率41%，誤答率22%と比べると，かなりの違いがある。

b 教育基本語彙の重要度別の正答率は，おおよそ表8のようである。調査語の数や内容にもよるが，成績は必ずしもB1・B2……C3・C4の順にはなっていない。しかしB（小学校4・5・6年）段階とC（中学校）段階とで比べれば，小学校上学年段階の語の表記力は中学校段階のそれよりも格段に高い。大ざっぱに言って，表記力の成績は，学年段階内の重要度とはあまり関係がないが，学年段階の違いとは深い関係があるといえよう。

なお，これだけの結果から推論することは危険であるが，語の難易度は，基本語彙学年段階内の重要度（1・2・3……）と考えるべきでなく，むしろ，基本語彙

の学年段階の違いと考えるべきであろう。したがって，「学年段階が高くなるほど語はむずかしくなり，表記力は低くなる。」といえようか。

c 文部省「児童・生徒の語い力の調査」では，第1段階と第2段階が「知っている」語であり，第3段階と第4段階が「知らない」語であると，まとめることができる。ここで簡単に

$$(\text{第1段階}) + (\text{第2段階}) \geq 51\%$$

である語は，生徒の理解語いであるとみなすならば，既に小学校6年において，「未満」「改革」「意外」「提案」「報道」「是非」「観衆」「被害」「歓迎」などの熟語は，よく理解されていることになる。さらに，中学3年になればほとんどが理解語いになり，理解されない語はわずか「旧知」「越境」だけである。中学2年の調査がないので残念であるが，小6から中3まで3年間の進歩向上を考慮すると，中2は中3を少し下回る程度と推察できる。（以上，文部省未調査熟語を除いて考察。）こうした観点から，本調査の結果を見るならば「観迎」（B1）・「歓衆」（B2）などはもっとでなければならないと考える。

d 段階別成績の分布は，表9のとおりである。

（表8）重要度別正答率

問題	重要度	語数	正答率
[1]	B 1	13	39 %
[2]	B 2	3	42
	B 3	2	49
[3]	C 1	16	19
[4]	C 2	5	14
[5]	C 3	5	18
	C 4	1	9

(表9)

熟語成績の分布状況

	0点	～5	～10	～15	～20	～25	～30	～35	～40	～45	計
男子	12人 (6)%	64 (29)	17 (22)	34 (16)	18 (8)	20 (9)	12 (6)	6 (3)	3 (1)	0 (0)	216 (100)
女子	3 (2)	46 (23)	40 (20)	37 (18)	39 (19)	15 (7)	14 (7)	5 (2)	3 (2)	0 (0)	202 (100)
合計	15 (4)	15 (26)	110 (21)	87 (17)	71 (14)	57 (8)	35 (6)	26 (3)	11 (1)	0 (0)	418 (100)

45点満点

最高39点(男)

最低0点(男・女)

全体の山が下位の方に寄っている。男女の成績には、統計的な有意差は認められない。

(2) 熟語と漢字

- a 「異同」はC3に属する語であるからむずかしい語といえるが、「異」は6年配当、「同」は3年配当の字であるのに正答率0.7%で最低である。「異」「同」の各字を書いたものは字面の誤りなどほとんどないから、他の人も字形はよく知っていたのであろうが、調査問題の文脈がまぎらわしかったためか、「移動」と思い誤って書いたのが誤答58.1%の大部分を占める。

このように教育漢字でよく知っている字でも、それが熟語となってむずかしいこととなり、他の既知の字や語をあてはめる例は多い。たとえば、「旧(6年)知(2年)」はC3に属し、これを「旧地」「窮地」「級地」と書き(誤答率55%)、「就(6年)任(5年)」C1を「集人」「衆任」と書いている。6年配当の字は本調査では概して表記力が劣るのであるが、5年以下配当の字でも組み合わせによってはむずかしくなり正答率が低くなるのが多い。(「列举」「軽重」「不變」「身辺」など。)

- b 当用漢字の表記力は一般的に低かったが、その誤答の中には字面の不備などによる誤りも少なくない(「被」「迎」など)。それ以外はいわゆるあて字をするのが多い。「被害」「被害」「非害」「非外」「日外」。「痛感」を「通感」「通間」。「歓迎」を「観芸」など、有意味無意味さまざまである。

しかし当用漢字の中でも、「呼吸」(B1, 正答66%)、「帰宅」(B3, 正答50%)は例外的に好成績である。この語が学校や家庭等で親しまれていたり使っていたりしているからであろうか。

- c 誤答には、①字形の誤り、②同音のあて字、のほかに、③発音の類似や誤解(たとえば、「眼目」ガンモク → ガクモン → 「学問」, 「改革」カイカク → カイタク → 「開拓」など。)④字形の類似(たとえば、「歓迎」 → 「勧仰」, 「呼吸」 → 「吸収」, 「観衆」 → 「飲象」など。)⑤意味の類似や連想(たとえば、「犯罪」 → 「判罰」, 「旧知」 → 「古地」など。)等によっていろいろな字があてられているのであるが、ここでは省略する。
- d これらの誤答を見ていると、次のようなことが考えられる。

- ① 滋賀県紀要第9集によると「あて字の傾向は、語形・語のむずかしいものから、やさしい順にあてての傾向がある」(P29)とあるが、少数であるが次は逆である。見(2)間(3) → 健(5)文(2)

② 歓迎 → 観芸, 異同 → 移動, 児童 → 自動……文脈から有意なあて字

③ 革改・吸呼・対差・予分…など見ると, 改, 革, 呼, 吸, 対, 予の字の意味を考えているが不明以上a・b・c・dから次の2点が考えられる。

① 字がやさしくても, 語としてむずかしいため正答率の低くなるのがある。

② 誤字・あて字を書くとき, 字の意味や語の意味を考えているのか疑わしい。

この②についてはもっとよく知りたいので, 後述の関連調査で考えてみるつもりである。

(3) 問題点

a 文部省「児童・生徒の語い力の調査」の語い理解の度合いを考慮しながら本調査の正答率を見ると, どうも成績がふるわないように思われる。成績不振ということは, 語い理解の度合いも, あるいは文部省調査より低いのではあるまいか。こうしたことから, 表記力向上のために語い指導が必要なのではないかと考えるのである。

b 字としてやさしくても熟語となるとむずかしいのがある。熟語をばらばらにした字の指導でなく, 語としての表記指導もほしい。

c 誤字・誤答が多いのは, 字形や発音に対する不注意やあいまいさに基づくものもあるが, 字義や語義に対する生徒の無とんじゃくによるものも多いのではなかろうか。

d 教育基本語彙として学年段階別にみると, 中学校段階の語彙表記力がひじょうに劣っている。この面から中学校においては, 漢字指導と結びついた語彙指導が必要ではないかと思う。

3 熟語の表記と関連調査 ——— 問二

(1) 関連調査問題の構成

調査時間や生徒の負担などを考えて, 次のように問題を構成した。また, 問二で調査対象とした漢字は, 問一の90字全部にはわたらなかったが, 45熟語の全部については調査している。

番号	内 容	方 法	問題数
⑥	漢字(1字)の訓	記 述	5
⑦	漢字(1字の意味	記 述	10
⑧	熟語の意味	記 述	12
⑨	熟語の意味	選 択	6
⑩	熟語の意味	選 択	1
⑪	熟語の構成(構造)	選 択	15

(2) 関連調査問題と結果の概要

問二

⑥ 次の漢字(1～5)の訓を()の中に書きなさい。

1. 推 () 2. 迎 () 3. 量 ()
4. 余 () 5. 疑 ()

問 題	1 推	2 迎	3 量	4 余	5 疑
正 答 率	7.2 %	22.5	11.7	33.3	21.3

⑦ 次の 線をひいた漢字(1～10)の意味を()の中に書きなさい。

- 救₁済 () 改₂革 () 3₃飲 () 4₄是 ()
5₅意 外 () 6₆原 作 () 7₇観 () 8₈非 ()
9₉中 毒 () 10₁₀衆 ()

問 題	1 済	2 革	3 飲	4 是	5 意
正 答 率	9.1 %	16.0	51.4	13.4	25.4
問 題	6 原	7 観	8 非	9 中	10 衆
正 答 率	41.8	41.2	28.2	2.9	40.4

⑧ 次のことば(1～12)の意味を()の中に書きなさい。

1. 不変 () 2. 帰宅 () 3. 有効 ()
4. 立腹 () 5. 見聞 () 6. 報道 ()
7. 列挙 () 8. 加盟 () 9. 普及 ()
10. 遠来の客 () 11. 大差がない ()
12. 旧知の人 ()

問 題	1 不変	2 帰宅	3 有効	4 立腹	5 見聞	6 報道
正 答 率	26.6 %	79.7	16.0	66.0	49.3	50.0
問 題	7 列挙	8 加盟	9 普及	10(遠来)	11(大差)	12(旧知)
正 答 率	0.5	16.3	17.7	72.8	78.2	61.9

⑨ 次のことば(1～6)の意味に、いちばんあうと思うものを、ア～エから一つずつえらんでア～エの記号で答えなさい。

1. 多難 ア. 困難が多い イ. たいへんありがたい ウ. 大きな^{こん}困難
エ. 多くをもとめにくい
2. 就任 ア. 役めを与える イ. 責任をとる ウ. 役めにつく エ. 役めをはたす
3. 被害 ア. 災害 イ. 害を受ける ウ. 害を与える エ. 大損害
4. 予測 ア. 予想があたる イ. てきとうにはかる ウ. あとでくわしくはかる
エ. 前もっておしはかる
5. 痛感 ア. だれでも心配する イ. 強く心に感じる ウ. 感動して頭が^{いた}痛い
エ. 痛み^{いた}を感じる
6. 入院 ア. けが人をいれる イ. 病院にいれる ウ. 病院がある
エ. 病院にはいる

1	2	3	4	5	6

問 題	1 多難	2 就任	3 被害	4 予測	5 痛感	6 入院
正答率	84.4%	74.2	83.3	71.5	44.3	75.2

⑩ 次の——線のことばの意味にあうものを、ア～エからぜんぶえらび出し、その記号を○でかこみなさい。

100円未満 ア. 100円 イ. 100円 ウ. 99円 エ. 98円

問 題	(未満)
正答率	44.7%

⑪ 次のことば(1～15)のしくみを考え、あとにあげた項目(ア～エ)に従って分類すると、どれにあたりますか。ア～エの記号で答えなさい。

1. 清潔 2. 近況 3. 犯罪 4. 祝辞 5. 異同 6. 提案 7. 児童
8. 身辺 9. 呼吸 10. 祭典 11. 眼目 12. 軽重 13. 抜群 14. 再会
15. 越境

ア 同じような意味の漢字を重ねたもの

イ 動詞の下に、目的を表わす漢字のついたもの

ウ 反対の意味をもつ2字が組み合わせあったもの

エ 上の漢字の意味が、下の漢字の意味を修飾しているもの

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15					

問 題	¹ 清潔	² 近況	³ 犯罪	⁴ 祝辞	⁵ 異同	⁶ 提案	⁷ 児童	⁸ 身辺
正答率	56.9%	44.9	20.3	46.4	62.7	41.7	65.8	52.8
問 題	⁹ 呼吸	¹⁰ 祭典	¹¹ 眼目	¹² 軽重	¹³ 抜群	¹⁴ 再会	¹⁵ 越境	
正答率	44.2	41.7	83.8	91.0	43.3	47.3	44.5	

(3) 考 察

① 考察の方針

a [問二] の問題を単独の調査問題としては考察しない。

これを単独の調査問題として、たとえば生徒の訓の表記力はどうか、熟語のしくみについての意義はどうか、などとも見ることもできるが、ここではそれを目的とはしない。

b 漢字の意味を理解しているかどうかを直接に知りえないものは、推察の程度にとどめる。

生徒の負担を考えて漢字全部の意味を自由記述させる方法をとらず、出題形式に変化をもたせたと、問題の不備のためと、推察にとどめざるをえないものがあつた。

c 具体的な生徒の例を挙げるのは、少数の事例程度にしておきたい。

漢字の表記力と意味理解との関係を知るのには、少なくとも[問一]と[問二]とを全面的に対照してみなければならないと思うが、その余裕がないので、数例をあげ、かつ表面的な考察しか行なわないことをおことわりしなければならない。実態のおおよそは[問二] 各問の正答率によって察することとし、具体的な生徒についての考察は、[問一] の成績上位・中位・下位から各10人、合計30人について行なうことにしておく。

d 具体的な例として考察の対象とする漢字の熟語も、少数にとどめておきたい。

これも余裕のないため、わずかな例をもって代表させる。

② 関連調査の結果と漢字表記との概観

a [6]漢字の訓について

当用漢字音訓表に載っている訓のいくつかについて、どの程度知っているかを見ようとした。いうまでもなく訓はその字の意味を表わしているものであるから、訓がわかることは、すなわち字義を理解していることであるとの考えから出題した。ところが本問題のような出題のしかたで動詞の訓を問うと、生徒はどう答えてよいかわからないのが多いように見受けられた。「迎」を「むか」、「余」

を「あま」と、書いたのを準正答として正答に加えても、50%を越えるのは「迎」「余」の2字である。誤答が多いのは問題にも責任がある。といって「推す」「迎える」……に読みがなをつけなさい、式の問題では、字義理解の程度を見ようとするのにはいささかもたない気がする。

「歓迎」の **問一** の表記正答は7.4%であったが、とくに不成績のもとをなしたのは「迎」の字の誤答33%、無答54%である。「迎」を書くべきところを「芸」と書いたものが多いことおよび無答が多いことは、「歓迎」や「迎」の意味を理解していないためであると思われる。しかし **問二** で「迎」の字を見せておいてその訓を問うたとき、50%以上のものが訓を知っていた、すなわち意味を理解していたということがわかる。文部省の「語い力の調査」によっても「歓迎」は理解語彙となっているから、本調査の生徒も意味は知っていたと見るべきであろう。それにしては **問一** と **問二** と正答の差が開いているのは、一般には読みが書きより成績がよいという原則に従って理解すべきであろうか。

「推量」は表記の正答が37%で、「推」「量」の訓（準正答を加えても「推」は13%、「量」は18%）の正答率よりもよい。これは、ふだん「推」「量」の訓を使う場が、音を使う場よりもずっと少ないため、訓はよく知らないという結果になったのでであろう。訓の方はどちらも50%以上の誤答があり、その中には音で答えたものが多い。

「疑問」の「疑」の表記は正答が38%、訓は準正答を加えて41%である。表記が低率であるのは字形のむずかしさによると思われる。字の意味はわりあいよく理解していると思う。

b **7** 漢字の意味について

当用漢字1850字には、訓の認められている字と、訓が認められず音だけしか認められていない字とある。ここでは、音だけしか認められない漢字の意味、および、訓が認められている漢字でも訓以外の字の意味、について問うてみた。この問題の中には、問題配分の関係から「中毒」の「中」の意味を問う無理なものも含まれてしまったが、これはいろいろ思いめぐらせばあたる答も出てくるはずである。

「済」「原」「中」は訓の認められている字であるが、ここではそれ以外の意味に使われていることをどの程度理解しているかを見ようとした。「原」についてはよくわかっていると思われる。これを30人について調べると、意味の正答者14人は表記も正答であり、意味の誤答9人のうち表記の正答3人、誤答6人、意味の無答7人のうち表記の正答2人である。このことから、意味のわかるものは表記もよいようである。

「済」「中」は無理のようであった。「済」は表記力も低いからいずれからみてもむずかしい字であろう。「救済」という熟語になっても、文部省の「語い力の調査」で中学3年になってようやく51%の理解に達するくらいだから、むずかしいのであろう。これに対して「中」はよく書けるが、めったに使わない「中」の意味は知らないというのが普通であろう。

「観」は音だけ認められているが、「飲」「勧」などと比較して指導されているのであろう、意味も理解されていると思われる。「飲」の意味も正答率が高いが、「よろこび」と答えたのが多いのはテレビの宣伝広告の力も加わっているのであろうか。

「是」「非」は単独で意味を答えるのはむずかしい。また単独で表記する場合も少ないであろう。

意味も表記もともにむずかしいが、「非」は他の熟語を構成する場が多いので、「是」よりは正答率が高い。

c [8]熟語の意味について

熟語の意味がよく記述できるものは、その構成文字の意味もだいたいよく理解できているものと思っ
て出題した。発音だけを手掛りとして、もとの熟語を再生表記するのは容易でないが、表記された
熟語を見て意味を思い出すのは容易である。表記正答42%の「遠来」も、意味記述は72%も正答
しているし、「旧知」の表記13%が意味記述61%であり、「立腹」の表記27%も意味記述66
%となっている。

しかし「不変」の18%に対して、意味記述26%であるのは、「不」「変」の表記に無答がそれ
ぞれ50%前後もあることを考えると、「不変」ということば(C2に属す)が生徒の日常生活には
使用されないため意味もわからないのではなかろうか。30人について調べてみると、表記の正答者
8人のうち意味の正答7人、無答1人である。また表記の無答15人のうち意味の正答3人、誤答2
人、無答10人である。表記の誤答7人の中にも誤答1人、無答5人がいる。意味記述の誤答例をあ
げると、「変じゃないこと」「あることが変わったこと」などある。これは「不」の意味を知らな
いのであろう。このことからだいたい「不変」ということばは意味がわからないから書くこともで
きないといえよう。

「列挙」(C1)は「列」も「挙」も4年生用の字であるが、表記は8%と低く、意味も正答は
0.5%で無答が73%という率である。意味の誤りの中には、「挙」という字から連想してか「選挙」
の意味に記述したものもあった。「列」の意味をどう理解しているのであろうか。いずれにしても、
生徒には理解されていないことばであるため表記もできないということになる。

d [9]熟語の意味について

[6]~[8]の問題は答を記述させたが、[9]~[11]は選択肢によって答えるようにした。選択肢は「就」や
「被」の意味がよくわかるように作成したためか、全般に好成績であった。ただ「痛感」は誤答 エ
が正答 イ を少し上回っていたのは、問題の作り方にまずいところがあったのだろう。また、「就
任」「被害」「痛感」など表記力のたいへん劣っているのが、このような選択法で意味を問うとたい
へんよくできるところに、表記と意味との関係がつかみにくいことを感ずる。

e [10]熟語の意味について

「未」「満」は6年生、5年生用の字であるが、それぞれ表記率も低くない。既に算数の方で「未
満」ということばも習っているので、意味は理解しているはずである。ここでは「未満」の実際の理
解を問うことによって「未」の字の意味理解を推察しようとした。正解は ウエ であるが、問題読
み取りの不じゅうぶんなものが ウ または エ と答えたものと仮定してこれをも加えると、正答
(理解)率は72%となり、ほとんどがよく理解しているといえよう。しかし「未満」を越えた イ
・イウ・イウエ の答が24%もあることは、約1/4の生徒は「未」の意味を理解していないと考
えたい。

30人の生徒について調べてみると、表記の正答と意味の正答と一致するものはわずか5人で、表
記が正答で意味が誤答のもの7人、表記が誤答で意味が正答のもの6人、両者とも誤答のもの10人

などである。ここでは、半数の人が表記と意味とが一致していることになる。

f ⑪熟語の構成について

熟語の構成についての指導は学校や教科書によって異なるであろう。この出題形式は某教科書にあったものを借り、適用される語を変えてすべて「問一」から選んだ。適用される語の分類は、なるべく常識に従うつもりであるが、なかに主観的だと批判されるものがあるかもしれない。

「犯罪」を除く他の14語は、いずれも正答が誤答より多い。これは、多数の生徒はこの出題程度の熟語のしくみに対しては判断する力がある、とみてよからう。表記力が低い語もここでは高い正答率を示していることはおもしろい。しかし「動詞の下に、日数を表わす漢字のついたもの」(選択肢イ)と「上の漢字の意味が、下の漢字の意味を修練しているもの」(選択肢エ)との区分になると、表10のように応答がかなり接近していて、判断に迷っている様子が見られる。字の意味

(表10) 「熟語のしくみ」の応答状況

選択肢	語	提 案	抜 群	越 境	近 況	祝 辞	身 辺	祭 典	再 会
イ (目的)		41.7	43.3	44.5	32.1	40.7	30.6	33.0	36.1
エ (修飾)		38.0	40.2	34.2	44.9	46.4	52.8	41.7	47.3

がよく理解されていないのではなかろうか。

「犯罪」は、正答 イ が20.3%であるのに誤答 ア・エ はそれぞれ58.9%と14.4%である。選択肢 ア は「同じような意味の漢字を重ねたもの」であるから、この誤答者は「犯」の意味を知らないことが推察される。おそらく、「犯罪」といえば悪い事だから、熟語としてひっくり返してムード的解釈をし、「罪」の字は悪い意味だから「犯」も同じように悪い意味だと感じていたのではなかろうか。「問一」の中では表記の正答が25%で成績順位は中位より少し上であるが、この

「問二」⑫では正答が最下位である。

「呼吸」は「反対の意味をもつ2字が組み合わさったもの」に44%応答しているので、判断はよいのであるが、表記の誤答の中には「呼吸」「吸収」などが見られた。反対の2字ではあるが「吸呼」を「コキユウ」の表記とするのでは、「呼」も「吸」も音・義ともに不明確であると思われる。ついでながら、「改革」を「革改」と誤答したのも同様に考えられる。

③ 問 題 点

- 関連調査によって表記と意味理解との関係を知りたいと思ったが、この不じゅうぶんな調査でははっきりした関係はつかめなかった。しかし語により字によっては関係の深いものもあった。
- 選択式の意味調査では、慎重に選択肢を吟味しておかないと所期のものは得られない。「問二」ではだいたい正答に答が集中したので、細部はわからないことが多い。それでも「犯罪」の「犯」の意味を正しく理解していないことがわかったことはおもしろい。
- 「列挙」「不変」など表記も意味理解もよくないものは、字義や熟語構成などの理解を深めることによって表記も向上していくのではなかろうか。
- 認められた訓のほかにも、漢字の意味を理解することによって、表記もより確かになっていくので

はなかろうか。

Ⅳ ま と め と 反 省

この小論では、2 漢字構成の熟語の書き取りを通して、中学生の漢字を書く力の実態を知り、そこから問題点を見いだそうとしたのであった。しかし計画が不じゅうぶんなため明確な結果が得られないがこれまで見てきたものをまとめてみる。

- ① 各種資料を参考にして推定すると、本調査における中学生の漢字を書く力は高くない。とくに教育漢字外の当用漢字を書く力は低い。
- ② 5・6年配当教育漢字は、下学年配当の字に比べて書く力が劣る。
- ③ 熟語を書く力は、1 漢字を書く力よりも劣る。
- ④ 漢字としてはやさしくても、熟語としてむずかしいのは書く力が低くなる。
- ⑤ 教育基本語彙を書く力を見ると、学年段階の違いに深い関係がある。本調査では、小学校4・5・6年段階の語に対して中学校段階の語はたいへん劣っている。
- ⑥ 書き取り、成績のよくなかった熟語は、その意味もよく理解してなかったり、それを構成する漢字の意味についてもよく理解していないことがある。

書く力の実態から上のようなことがらがうかがえる。このことから漢字指導上の問題になる点を考えると、

- a 書く力の劣る理由には、点画の誤りによるものも少なくないので、字形も正確に書くようにしなければならない。
- b あて字などを少なくするのには、同じ音や似た音の字であればよいという文字に対する無とんじゃくさをなくするように、くふうがほしい。
- c さらに書く力を高めるには、漢字の形・音の指導だけでなく、字義(訓も含む)や熟語の構成等にも及ぶ漢字指導が必要である。

などあるであろう。

生徒は漢字を表音文字化して使っているのが多いように思うが、表意文字である点をもっと強調してもよいように思う。今回は熟語だけを調査して字の意味との関係も知りたいと思ったが、はっきりしたものはつかめなかった。しかし漢字指導としては字義の方面からの研究もだいじであり、また訓や熟語以外の領域もだいじであるので、ともに今後の課題としていきたい。

この調査研究を行なうにあたり、貴重な時期に快く調査にご協力をいただいた学校の校長先生、教頭先生、関係諸先生、ならびに生徒諸君に深く感謝の意を表します。

この調査研究を担当し、結果をまとめ執筆したのは竹内三一郎です。

参考文献

- | | | |
|------------|---------------------------|-----------------|
| ○文部省 | 児童生徒の漢字を書く能力とその基準 | 明治図書出版 |
| ○ ” | 児童生徒の語い力の調査 [小学校第 6 学年] | 光風出版 |
| ○ ” | ” [中学校第 3 学年] | 教育図書 |
| ○国立国語研究所 | 現代雑誌九十種の用語用学 | |
| ○ ” | 昭和 4 1 年度 国立国語研究所年報 1 8 | |
| ○阪本一郎 | 教育基本語彙 | 牧書店 (昭 3 3 年) |
| ○藤堂明保 | 漢文概説 | 秀英出版 |
| ○滋賀県教育研究所 | 研究紀要第 9 集 | |
| ○全国教育研究所連盟 | 研究報告集 第 7 次年報 | 東洋館出版 |